

地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）延伸（浦和美園駅から岩槻駅）の 建設促進による早期事業化実現について

地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）の延伸活動は、地域住民の利便性向上や、地域の経済発展・振興に向け、昭和44年から関係機関が結集し活動を続けてまいりました。

平成9年には、当時の岩槻市（現岩槻区）において、市民・経済界が一体となった「地下鉄7号線誘致岩槻市民推進協議会」が設立され、延伸に向けた活動が、大きな輪となり、平成12年1月には、運輸政策審議会答申第18号において、地下鉄7号線は、「浦和美園から岩槻を経由して蓮田に至るまでの区間を平成27年までに開業することが適当な路線」として位置づけられました。

また、平成13年3月には、赤羽岩淵から浦和美園間が埼玉高速鉄道線として開業し、岩槻までの延伸に大きな弾みとなりました。

平成17年4月には、さいたま市と岩槻市の合併により、新生「さいたま市」が誕生をし、旧岩槻市を中心とした市内東部地域の延伸活動から、市内全域での活動への広がりを踏まえ、私どもさいたま商工会議所を中心に、平成24年9月にさいたま市地下鉄7号線延伸事業化推進期成会を新たに設立。現在約12000の会員組織として、さいたま市及びさいたま市議会をはじめ市民・教育機関・スポーツ界・経済界等が一体となった「オールさいたま」での延伸活動を推進しております。

併せて地元行政機関であるさいたま市においては、当期成会設立と同月に、「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」を策定し、延伸地域における、成長・発展に向けた43の方策に取り組んでおります。

最近では、こうした活動の成果として、浦和美園駅及び岩槻駅周辺では、交流・居住機能や防災機能が充実し、着実に定住人口が増加しており、さらに一層の交流人口の増加が見込まれております。

こうした状況の中、平成28年4月には交通政策審議会答申第198号において、埼玉高速鉄道線における浦和美園から岩槻を経由して蓮田に至るまでの区間の延伸が「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」として位置づけられました。

前回の答申区間の維持は、延伸実現の生命線であり、国土交通省をはじめとする関係者皆様方の御尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

この延伸活動は、そのはじまりから約50年が経過しようとしています。答申第198号におきましては、開業後の採算性が課題として指摘されておりますが、東日本大震災の復興をはじめ東京五輪の建設による、建設費の高騰などの特殊要因が大きく影響しているものの、定住人口や交流人口の増加など、埼玉高速鉄道線の延伸に相応しいまちづくりが急ピッチで進んでおります。

また、埼玉高速鉄道線は、東日本大震災時における鉄道路線として、いち早く復旧し、都心からの代替路線として貢献をし、災害時に欠かすことのできない存在であり、看護をはじめとする福祉系の3大学の存在や、新たな大学病院の建設計画も控えているなど、首都圏における大規模災害発生時の緊急輸送ルートの拠点としての役割も期待をされております。

さらに、東京五輪の会場のひとつである「埼玉スタジアム2002」は、延伸地域に位置し、世界各国からの来訪者に向けて日本を大きくアピールする上で、首都圏からの速達性や輸送力など、開催都市にふさわしいおもてなしへの環境整備が求められております。

つきましては、市民、経済団体をはじめとする「オールさいたま」における悲願である地下鉄7号線延伸の早期実現に向け、以下の項目について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 埼玉高速鉄道線の答申路線の鉄道整備が促進されるよう、都市鉄道等利便増進法における補助制度の拡大及び、社会情勢に応じた許可要件の緩和
- 2 埼玉高速鉄道線の延伸地域を、首都圏広域地方計画における緊急輸送ルートの拠点として位置づけ、広域交通ネットワークの強化と強靱なまちづくりに向けた、都市基盤整備事業への積極的な支援